

地元団体によるみなとまちづくりの取り組みに関する研究

—「八幡浜みなとまちづくり協議会」を対象として—

A Study on the Performance of City Planning from Port by the Local Organization

—A focus on the “Yawatahama Conference of City Planning from Port”—

○川名部弘揮¹, 横内憲久², 岡田智秀², 今野将志³

*Hiroki Kawanabe¹, Norihisa Yokouchi², Tomohide Okada², Konno Masashi³

Abstract: The purpose of this study is to understand the factors Initiatives focusing on local organizations to achieve "City Planning from Port", to promote the integration of space behind and port space. As a result, it creating mechanisms for inducing the city center and the cooperation with other organizations is a factor has been captured.

1. はじめに—近年, わが国における港湾はアジア諸国のハブ港の台頭に伴い, 特に貨物量の低下が著しく, 物流施設の集約・縮小により, 遊休地化をみせている^[1]. そこで, 国土交通省が 2003(平成 15)年に「みなとオアシス制度」を策定するなど, 遊休地を地域資源として活用する「みなとまちづくり」によって地域活性化の方策として打ち出した^[2]. しかし, 港湾空間の多くは, 都市計画法および港湾法で臨港地区と定められ, 港湾法の分区指定により, 港湾の管理運用に係わる施設以外の立地は規制されているため, 港湾空間のみでの活性化は限界があり, 背後空間を含めたみなとまちづくりが必要となる^[3].

このみなとまちづくりに関しては, 現在, 港湾の多様性を反映した取り組みがいくつかの地元団体(民間企業, 地元 NPO 等)によって実施されており, 国土交通省は 2008(平成 20)年に「みなとまちづくりマイスター制度^{*}」を策定し, みなとまちづくりの成果が得られた事例については, それを認定している^[4]. そのため, 地元団体の取り組みがみなとまちづくりの推進を大きく左右しているといえ, 本研究では港湾空間と背後空間が一体となったみなとまちづくりのあり方の提案をすることを目的とする. そこで本稿では, みなとまちづくり推進を図る地元団体に着目し, 港湾空間と背後空間の一体化を促進させる取り組みの要因を把握する.

2. 研究方法—本稿では, みなとまちづくりマイスター

Table 1. Outline of the survey

調査方法	文献調査 ^{[5]~[12]}	ヒアリング調査
調査期間	2013 年 7 月 1 日~9 月 7 日	2013 年 8 月 19 日
調査対象	八幡浜港: 「八幡浜みなとまちづくり協議会」	
調査内容	○団体の概要および取り組み内容 ○港湾空間と背後空間の一体化を促進させる要因	

Table 2. The summary and the contents of the local organization

団体名	団体概要		取り組み内容
「八幡浜港みなとまちづくり協議会」	団体所在地: 愛媛県八幡浜市	所在港湾名: 八幡浜港	●「市民フォーラム」の開催 ●「みなとまちづくりプラン」の策定 ●「みなとまちづくりコンペ」の実施 ●市長への「みなとまちづくり提言書」の提出 ●地元高校生徒に授業として「まちづくりとものづくり」の実施 ●漁船での「八幡浜湾クルーズ」の開催 ●誰でも参加できる「トロ箱劇場」の実施 ●「海鮮朝市みなとまちまるごとツアー」の実施 ●「港弁全国化プロジェクト」の実施 ●チラシ配布やホームページの開設など PR の充実 ●みなとまち八幡浜の風景や人物をテーマとした「フォトコンテスト」の開催 ●地元高校生が企画した「バザー」「高A☆KIND」の開催 ●「八幡浜再発見! レトロな町並み散策と宇和海クルーズ」の開催 ●「みなと交流館」の指定管理業務を実施
	都市行政: 八幡浜市	港湾行政: 八幡浜市	
	みなとまちづくりマイスター: 谷本訓男	2009(平成 21)年認定	
	設立年月: 2003(平成 15)年 8 月		
	会員構成: 学識経験者, 港湾関係者, 水産関係者, 交通機関関係者, 旅行関係者, 女性団体関係者, 商工農業関係者, まちづくり団体 計: 28 名		
	事業経費: 市補助金 69%, 物販売上 16%, イベント助成金 8%, 報奨金 6%, 広告収入 1%		

が所属する地元団体から, 「八幡浜みなとまちづくり協議会」を調査対象事例として, 文献調査^{[5]~[12]}およびヒアリング調査から団体の概要および取り組み内容を把握し, 港湾空間と背後空間の一体化を促進させる取り組みの要因を把握する(Table1).

3. 結果および考察—Table2 は, 「八幡浜みなとまちづくり協議会」の概要および取り組み内容をまとめたものである.

3-1. 「八幡浜みなとまちづくり協議会」の設立経緯—

八幡浜港は, 九州と連絡する四国西部の海上交通の拠点であるとともに, 四国有数の魚市場を有し, トロール漁業の中心基地と農水産物の物流の集散基地としても重要な役割を果たしていた. しかし, 近年, 港湾物流やフェリー利用客の減少や基幹産業である第一次産業の低迷, 若年層の流出による人口減少と高齢化の進行に伴い, 八幡浜市の活力が失われ, 愛媛県で唯一過疎指定を受けるまでに至っていた. この状況を打開するため, 八幡浜市は港湾を中心に発展してきた歴史を踏まえ, 「みなとまち八幡浜の再生」を基本理念として, 「八幡浜港振興ビジョン」を 2002(平成 14)年に策定し, 埋め立てによる再開発事業を計画した. この「八幡浜港振興ビジョン」の実現を図るため, 市民が中心となってみなとまちづくりに参加する活動組織として「八幡浜みなとまちづくり協議会」が設立された^{[5][6]}.

3-2. 「八幡浜みなとまちづくり協議会」の取り組み—

「八幡浜みなとまちづくり協議会」の主な取り組みとして「やわたはま海鮮朝市」や「市民講座」などイベントの企画・実施, フェリー利用客等へのアンケート調査の実施・

1: 日大理工・院(前)・不動産 2: 日大理工・教員・まち 3: 日大理工・学部・建築

分析, これら取り組みの結果を基に, 行政に対する提言書の提出などを通して, 「八幡浜港と中心市街地との一体的なまちづくり」を目指し, 港湾を中心とした賑わい創出策を検討している^[7].

以降では, 港湾空間と背後空間の一体化を促進させた取り組みから, その要因を把握していく。

(1) 他団体との連携—「八幡浜みなとまちづくり協議会」は, 設立直後, 港湾に人を集める方法として, 八幡浜市の特産品である約200種の海鮮物の販売を主とした「やわはま海鮮朝市」を実施した。さらに, 朝市と同時に実施する「トロ箱劇場」や漁船を利用した「八幡浜湾クルーズ」などにより, 港湾には多くの人が集まり, 港湾を核としたイベントは人気を確固たるものにした。そこで, 八幡浜市の観光ボランティア団体と連携して, 朝市に中心市街地や歴史的街並みの観光を含めた「みなとまちまるごとツアー」や「みなとまち探訪ツアー」を実施するなど, 港湾を核に市街地へ誘導させる取り組みを実施している。このような, 他団体との連携したイベントを重要視し, 継続して実施するには, 連携を密にとる必要があると考えていた。そこで, 提言書により八幡浜市に多数存在する地元団体の連絡・活動拠点としての機能を, 新たに整備される施設に持たせることを求めていた^[5]。

これらのことから, 港湾空間と背後空間の一体化を促進させた取り組みとして, 港湾を核として背後の地域資源を含めたイベントの実施が挙げられ, その実施のためには, 他団体との連携が必要となる。また, このようなイベントを継続して実施するには, 他団体との連携を密にとる必要があるため, 地元団体の連絡・活動の拠点となる施設が存在することによって, 他団体との連携の向上が図られよう。

(2) 市街地への誘導—「八幡浜みなとまちづくり協議会」は, 港湾を核としたイベントで集客した顧客やフェリー利用客を, 中心商店街および歴史的街並みへ誘導させる仕組みづくりを模索していた。そこで, 上述した他団体

との連携による背後空間を含めたイベントの実施に加え, 朝市およびフェリー利用者等の観光客が待ち時間などに市内観光させることを促進するため, 観光・散策に要する時間を明記した「八幡浜みなと観光ガイドマップ」を作成し, 朝市やフェリーターミナルなどで配布している^[5]。さらに, 初めて八幡浜市に訪れる人のために, 提言書により, シンボルロードの整備や観光案内板の設置など港湾から市街地への導線を明確にすることを求めていた^[8]。

これらのことから, 港湾空間と背後空間の一体化を促進させるためには, 朝市やフェリー利用者等の観光客が待ち時間などに市内観光させるため「観光ガイドマップ」の作成や港湾から市街地への導線を明確にするといった, 市街地へ誘導させる仕組みづくりが必要となる。

4. まとめ—本稿では, 「八幡浜みなとまちづくり協議会」の取り組みから, 港湾空間と背後空間の一体化を促進させる取り組みの要因を把握した。その結果, 他団体との連携および背後の市街地へ誘導させるための仕組みづくりが要因であることを捉えた。ここで, 港湾空間の多くは, 港湾法の分区指定によって港湾空間に施設の立地が規制され, 港湾空間と背後空間が分離された利用となっていた。しかし, 近年の社会的要請により, 規制緩和が図られ, 港湾空間においても自由度が増してきている^[13]。本稿で得られた知見は, みなとまちづくり推進を図る地元団体の取り組みにより, 分離された利用となっていた港湾空間と背後空間の一体的な利用を促進させる一助となると考える。

5. 補注・参考文献

- ※1 みなとまちづくりマイスターは, 賑わい創出や地域の活性化などみなとまちづくりの成果が得られた事例における中心的な役割を担ったものとして, 国土交通省により認定[文献4]
 [1]朝日新聞, 2008, 11, 15 [2]国土交通省:「国土交通白書」, p137, 2011, 8, 26 [3]社団法人日本港湾協会:「港湾」, 社団法人日本港湾協会, p9, 2009, 10 [4]社団法人日本港湾協会:「港湾」, p2, p9, p23, 2009, 10 [5]愛媛大学地域創成研究センター:「八幡浜市の港湾地域の活性化と八幡浜振興ビジョン」, 地域創成研究年報, pp. 89~98, 2012, 3 [6]社団法人日本港湾協会:「港湾」, pp. 56~57, 2002, 7 [7]社団法人日本港湾協会:「港湾」, p25, 2006, 5 [8]社団法人日本港湾協会:「港湾」, pp. 51~52, 2005, 12 [9]社団法人日本港湾協会:「港湾」, pp. 56~58, 2004, 7 [10]社団法人日本港湾協会:「港湾」, p34, 2011, 3 [11]社団法人ウォーターフロント開発協会:「ウォーターフロント開発 no. 27」, p35, 2010, 3 [12]八幡浜市:「補助金等検討委員会会議録概要」, pp. 1~5, 2010, 8 [13]松本真奈美:「まちづくりにおける臨港地区の今後の位置づけに関する研究—主要5港湾の運用実態を中心として—」, 日本大学大学院理工学研究科不動産科学専攻修士論文梗概集第15号, pp. 27~32, 2008, 3



Photo1. The port of Yawatahama



Photo2. "Seafood morning market"



Figure1. The map of Yawatahama around port